

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-22546

(P2010-22546A)

(43) 公開日 平成22年2月4日(2010.2.4)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 47/04 (2006.01)	A 4 7 B 47/04	3 B 0 5 4
A 4 7 B 96/20 (2006.01)	A 4 7 B 96/20	
	A 4 7 B 96/20	

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願2008-186614 (P2008-186614)	(71) 出願人	000204985
(22) 出願日	平成20年7月18日 (2008.7.18)		大建工業株式会社
			富山県南砺市井波1番地1
		(72) 発明者	新田 健
			富山県南砺市井波1番地1 大建工業株式
			会社内
		(72) 発明者	亀山 よしみ
			富山県南砺市井波1番地1 大建工業株式
			会社内
		Fターム(参考)	3B054 BC04 BC07 BC11 BC14

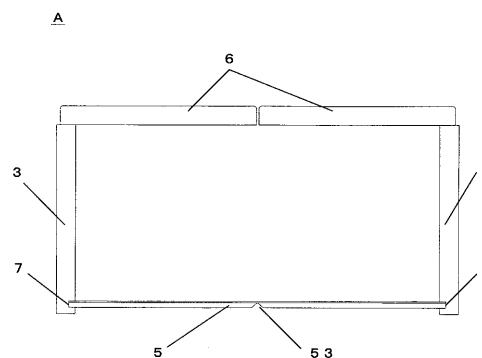
(54) 【発明の名称】 収納体

(57) 【要約】

【課題】 背板が折り畳み可能であり、且つ生産効率のよい、意匠性に優れた、従来のものに比べ組み立て容易な収納体を提供する。

【解決手段】 天板、底板、左側板、右側板、背板とからなる収納体において、背板が、基材と、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材とからなり、基材の収納体外側面から可撓性シート材に向かって刻設された折畳溝が、基材の一端から対向する他端に亘り設けられていることを特徴とする収納体

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

天板、底板、左側板、右側板、背板とからなる収納体において、背板が、基材と、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材とからなり、基材の収納体外側面から可撓性シート材に向かって刻設された折畳溝が、基材の一端から対向する他端に亘り設けられていることを特徴とする収納体。

【請求項 2】

基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材が化粧シートであることを特徴とする請求項 1 に記載の収納体。

【請求項 3】

天板及び底板、又は左側板及び右側板のいずれか一方の、収納体内側面に背板の嵌入部を嵌め込むための凹溝が設けられているとともに、天板及び底板、又は左側板及び右側板のいずれか他方の、背面側端部に背板を固着するための段部が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の収納体。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、施工現場で組み立てられる下駄箱、玄関収納等の箱型の収納体に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、天板、底板、側板、左背板、右側板、扉などの各部材を、ダンボール等の梱包材を用いて、ひとまとめに梱包した後、工場から出荷し、施工現場で組み立てる下駄箱、玄関収納等の箱型の収納体として、例えば特許文献 1 に記載のものが知られている。この収納体は、分割された背板を底部と底部より延出する挟持部からなる 2 つの断面略コの字形の嵌合片を外向きに開口するように配し、折り曲げ可能な連結部によって該嵌合片の底部同士を連結したジョイナーの嵌合片に嵌合連結されて一体化した背板を用いてなる収納体であり、各部材の中で最も大きな背板を折り畳むことができるため、梱包体も小さくすることができ、運搬時の取り扱いがしやすいものであった。

【0003】

また、収納体の組み立ては、特許文献 1 に記載されているように、背面側端部に段部が設けられた天板、底板、左側板、右側板を口の字状に組み立てた後、段部に背板を釘や接着剤を用い固着することで行なわれたり、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の収納体内側面の背面側端部より引っ込ませたところに棧を固定しておき、棧に背板を固着することで行なわれたり、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の背面側端部に直接背板を固着することで行なわれたり、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の収納体内側面に背板の厚さと等しい幅の溝を設け、各々の部材を固着する前に該溝に背板を嵌入させて各々の部材を固着することで行なわれていたりしていた。

【特許文献 1】特開平 11 - 137357 号公報

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、ジョイナー等の連結部材を用いたこのような収納体は、連結部材の色を背板の収納体内側面の色すなわち収納体内部の色と合わせたとしても、背板に対し連結部材が目立ち、見掛けが悪く、意匠性に劣る共に、工場で分割した背板を連結部材でひとつひとつ連結しなければならないため、生産に非常に手間がかかるという問題があった。

【0005】

また、天板、底板、左側板、右側板を口の字状に組んだ後、天板、底板、左側板、右側板の背面側端部に設けられた段部や、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の収納体内側面の背面側端部より引っ込ませたところに棧や、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の背面側端部に、背板を釘や接着剤を用い固着することで行なう収納体の組み立て

10

20

30

40

50

は、天板、底板、左側板、右側板のそれぞれに対して、釘を打ち込み、背板を固定する必要がある、非常に手間がかかるという問題があった。そして、天板、底板、左側板、右側板の各々の部材の収納体内側面に背板の厚さと等しい幅の溝を設け、各々の部材を固着する前に該溝に背板を嵌入させて各々の部材を固着することで行なう収納体の組み立ては、溝に背板を嵌入させた状態を保ちながら各々の部材を固着する必要があるため、上記のような天板、底板、左側板、右側板を口の字状に組んだ後、背板を固着する方法に比べて、組み立てにくいという問題があった。

【 0 0 0 6 】

本発明はかかる問題を鑑みなされたものであり、背板が折り畳み可能であり、且つ生産効率のよい、意匠性に優れた、従来のものに比べ組み立て容易な収納体を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

上記目的を達成するため、請求項 1 の発明は、天板、底板、左側板、右側板、背板とからなる収納体において、背板が、基材と、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材とからなり、基材の収納体外側面から可撓性シート材に向かって刻設された折畳溝が、基材の一端から対向する他端に亘り設けられていることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

請求項 2 の発明は、請求項 1 に記載の収納体において、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材が化粧シートであることを特徴とする。

20

【 0 0 0 9 】

請求項 3 の発明は、請求項 1 又は請求項 2 に記載の収納体において、天板及び底板、又は左側板及び右側板のいずれか一方の、収納体内側面に背板の嵌入端部を嵌め込むための凹溝が設けられているとともに、天板及び底板、左側板及び右側板のいずれか他方の、背面側端部に背板を固着するための段部が設けられていることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

請求項 1 の発明の収納体によると、天板、底板、左側板、右側板、背板とからなる収納体において、背板が、基材と、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材とからなり、基材の収納体外側面から可撓性シート材に向かって刻設された折畳溝が、基材の一端から対向する他端に亘り設けられているため、背板が折り畳み可能であり、梱包体を小さくすることができ、運搬時の取り扱いがしやすいとともに、基材の収納体内側面の全面に可撓性シート材が貼着されており、収納体の内側を見た際に可撓性シート材のみが見えるため、見掛けがよい。また、折畳溝はルーター等の機械を用いて刻設することができるため、背板を効率よく生産でき、生産効率に優れた収納体とすることができる。

30

【 0 0 1 1 】

請求項 2 の発明の収納体によると、請求項 1 の発明の収納体において、基材の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材が化粧シートであるため、例えば、収納体内部（換言すれば、天板、底板、左側板、右側板）と同色・同柄の化粧シートを用いることで、より意匠性に優れた収納体とすることができる。

40

【 0 0 1 2 】

請求項 3 の発明の収納体によると、請求項 1 の発明の収納体において、天板及び底板、又は左側板及び右側板のいずれか一方の、収納体内側面に背板の嵌入端部を嵌め込むための凹溝が設けられているとともに、天板及び底板、又は左側板及び右側板のいずれか他方の、背面側端部に背板を固着するための段部が設けられているため、天板、底板、左側板、右側板を口の字状に組み立てた後、折り畳んだ状態（若しくは折り畳んだ状態からやや開いた状態）の背板を、嵌入端部が段部をスライドするようにしながら開きつつ、凹溝に背板の嵌入端部を嵌入し、背板を完全に開いた後、段部に背板を釘等を用い固着することで、収納体を容易に組み立てることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

50

【 0 0 1 3 】

以下、本発明の実施例である収納体 A について図に基づき説明する。尚、本発明は本実施例の記載内容に限られるものではない。

【 0 0 1 4 】

図 1 は本発明の本実施例に係る収納体 A を示す斜視図、図 2 は収納体 A を示す背面図、図 3 は図 1 における X - X 線断面を示す断面図、図 4 は図 1 における Y - Y 線断面を示す断面図である。収納体 A は、下駄箱、玄関収納、キャビネット等として用いられる箱型の収納体であり、天板 1、底板 2、左側板 3、右側板 4、背板 5 とからなる。また、左側板 3 及び右側板 4 には、丁番（図示せず）を介し、取手付きの扉板 6 が取り付けられている。なお、本発明では、収納体 A の、開口側（扉板 6 が取り付けられている側）を正面とし、背板 5 が取り付けられている側を背面とし、収納体 A を構成する天板 1、底板 2、左側板 3、右側板 4、背板 5 の、収納体 A の内側となる面を収納体内側面、収納体 A の外側となる面を収納体外側面とする。

10

【 0 0 1 5 】

天板 1、底板 2、左側板 3、右側板 4 は、MDF 等の木質繊維板、合板、集成材、無垢の木材、等の木質材料や、合成樹脂や、金属等からなるものであって、必要に応じてそれらの表面に化粧を施した合成樹脂シート、突板単板等を貼着したり、塗装したりしたものを用いる。

【 0 0 1 6 】

背板 5 は、図 5 に示すように、基材 5 1 と、基材 5 1 の収納体内側面の全面に貼着された可撓性シート材 5 2 とからなり、基材 5 1 の収納体外側面から可撓性シート材 5 2 に向かって刻設された折畳溝 5 3 が、基材 5 1 の一端から対向する他端に亘り設けられており、図 6 に示すように、折畳溝 5 3 で、可撓性シート材 5 2 が内側となるように折り畳むことができるようになっている。

20

【 0 0 1 7 】

具体的には、基材 5 1 の収納体外側面から可撓性シート材 5 2 に向かって、先端が可撓性シート材 5 2 に達する V 字状であり、V 字を形成している対向面のなす角度は 95 度である折畳溝 5 3 が、背板 5 の上端（収納体とした際に上となる端部）から、背板 5 の下端（収納体とした際に下となる端部）に亘り設けられている。なお、折畳溝 5 3 の形状はこれに限らず、V 字を形成している対向面のなす角度が 95 度よりも鈍角や鋭角になっているものであってもよい。

30

【 0 0 1 8 】

基材 5 1 は、MDF などの木質繊維板、合板、集成材、無垢の木材、等の木質材料や、合成樹脂や、金属等からなるが、折畳溝 5 3 を刻設することを考慮すると、折畳溝 5 3 を刻設しやすい木質材料であることが望ましい。

【 0 0 1 9 】

可撓性シート材 5 2 は、背板 5 を折り畳み可能な収縮性を有するものを用いることができ、具体的には、オレフィンシート等の合成樹脂シート、突板単板、不織布等を用いることができる。また、可撓性シート材 5 2 は、収納体 A とした際に、収納体内側に露出するため、収納体 A の内部の色・柄（換言すれば、天板 1、底板 2、左側板 3、右側板 4 の収納体内側面の色・柄）に合わせて、着色、印刷等により化粧を施した化粧シートを用いることが望ましい。

40

【 0 0 2 0 】

天板 1 及び底板 2 の背面側端部には、背板 5 を固定するための段部 8 が設けられており、左側板 3 及び右側板 4 の収納体内側面には、背板 5 を嵌め込むための凹溝 7 が設けられている。そして、図 7 に示すように、天板 1、底板 2、左側板 3、右側板 4 を、ネジ、釘、ダボ、接着剤、等の固定手段を用いて口の字状に組み立てた後、折畳溝 5 3 で折り畳んだ状態からやや開いた状態の背板 5 を、嵌入端部 5 4 が段部 8 をスライドするようにしながら開きつつ、凹溝 7 に背板 5 の嵌入端部 5 4 を嵌入し、図 8 に示すように、背板 5 を完全に開いた後、段部 8 に背板 5 を釘等を用い固着して組み立てることで収納体 A としてい

50

る。なお、本実施例では、図 2、図 3 に示すように、背板 5 を補強するとともに、釘等により背板 5 を固着する際に背板 5 を確実に固着するために、MDF 等の木質繊維板、合板、集成材、無垢の木材、等の木質材料や、合成樹脂や、金属等からなる補強材 9 を用いている。

【0021】

また、本実施例では、天板 1 及び底板 2 の背面側端部に、背板 5 を固定するための段部 8 が設け、左側板 3 及び右側板 4 の収納体内側面に、背板 5 を嵌め込むための凹溝 7 が設けられるようにしたが、天板 1 及び底板 2 の収納体内側面に、背板を嵌め込むための凹溝を設け、左側板 3 及び右側板 4 の背面側端部に、背板を固定するための段部を設けるようにしてもよい。

10

【0022】

さらに、本実施例では、左側板 3 及び右側板 4 に丁番を介して扉板 6 を取り付け付けた収納体 A について説明したが、扉板がなく正面が開口している収納体や、スライド扉、折戸扉等の別の開閉構造の扉を有する収納体であってもよい。

【産業上の利用可能性】

【0023】

本発明は、背板が折り畳み可能であり、且つ生産効率のよい、従来のものに比べ組み立て容易な収納体であり、極めて有用で産業上の利用可能性が高い。

【図面の簡単な説明】

【0024】

20

【図 1】 収納体 A を示す正面斜視図

【図 2】 収納体 A を示す背面図

【図 3】 図 1 における X - X 線断面を示す断面図

【図 4】 図 1 における Y - Y 線断面を示す断面図

【図 5】 背板を示す図

【図 6】 折り畳んだ状態の背板を示す図

【図 7】 収納体 A の組み立て途中の状態を示す図

【図 8】 収納体 A の組み立て途中の状態を示す図

【符号の説明】

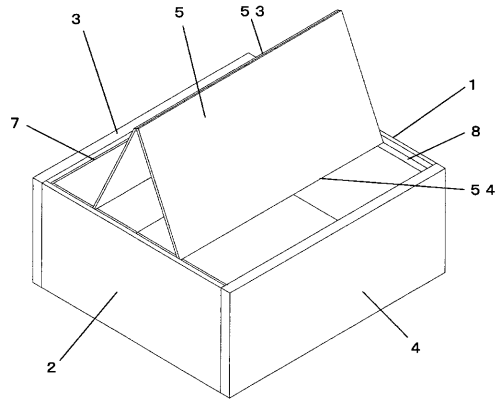
【0025】

30

A	・・・	収納体
1	・・・	天板
2	・・・	底板
3	・・・	左側板
4	・・・	右側板
5	・・・	背板
5 1	・・・	基材
5 2	・・・	可撓性シート材
5 3	・・・	折畳溝
5 4	・・・	嵌入端部
6	・・・	扉板
7	・・・	凹溝
8	・・・	段部
9	・・・	補強材

40

【図 7】



【図 8】

